

REHACARE 2013 国際介護・福祉機器展
ドイツ・デュッセルドルフ
2013年9月25日～28日



約 **43,500** 名のビジターが **REHACARE** に参加

37 カ国から **750** の出展者が介護、福祉機器やサービスを出展

リハビリと介護におけるイノベーティブをテーマに重点を置いた今年の REHACARE は、9月28日に4日間の日程を開催地デュッセルドルフで終えた。同展は今年もリハビリ、福祉機器の業界関係者やユーザー、その家族などの高い関心と呼んだ。約 **43,500** 名のビジターは自立した生活のための福祉機器やサービス、リハビリなどの科学的な最新の調査結果などを求め来場した。出展者は **37** カ国から **750** 社が出展。比較対象となる REHACARE2011 のビジター数は **47,000** 名だったため、今回はそれを上回ることができなかったが、イノベーティブな製品や新たに開発された製品が多数出展され、ビジターからの高い評価を受けた。

会期中のコンGRESSでは在宅ケアに関する最新情報や、高齢者や脳卒中患者の自立生活支援に関するテーマが取り上げられ、見本市を補完した。見本市そのものは非常にイノベーティブな製品、技術を持つ中小企業などが多数出展し、年に一度の顧客、パートナー、ユーザーとのコミュニケーションを深める国際的なプラットフォームとして機能した。ビジターとして参加する身体障害者やその家族、また介護、リハビリの施設関係者などは、出展者が提供する技術的な今後の可能性やノウハウに触れ、双方が REHACARE を活用した。

身体障害者のドイツの全国的な団体である連邦自助協議会（BAG）は、REHACARE が介護や自立支援などに必要な製品に関してのトピックスや問題点を知る上での重要なフォーラムであると評価した。介護・支援機器の新たなテクノロジーが、利用者の視点や要望に合致することで、身体障害者や高齢者の自助生活に貢献できる。BAG のパビリオンで開催されたコンGRESSの今年のテーマとなった「脳卒中」も、介護分野の専門家の協業を促進するものとなった。また CaféForum でのプレゼンテーションでは介護を必要とする人たちのための旅行やスポーツ、レクリエーションなどのテーマが大きな関心と呼んだ。

出展者からも REHACARE の方向性に対し評価があった。ドイツの大手福祉機器メーカーであるオットーボック・ヘルスケアは、今回の出展に関しても実り多いものだったとコメント。同社のプロダクトラインである歩行器や昇降機などの移動機器、義手・義足、ニューロリハビリテーションや、そのソリューションがブースに来場する顧客やパートナーとのディスカッションを通じて、市場のニーズを一致すること、また関心が高いことが証明できたとのことである。



日本からは4年連続での出展である(株)加地が、今回も高機能 GEL 素材ケア製品の欧州販売を目的に出展し、次のようにコメントした。「今回で4回目の出展となり、お互いに顔を覚えている訪問者がかなり増えてきた。継続して出展することの重要性をあらためて感じるとともに、展示会の一員として定着することでバイヤーの当社に対する信頼度も向上していると実感した。来年度以降も継続出展し、欧州で地を足つけたビジネス展開を図っていきたい。」

REHACARE のビジターの関心は今年も身体障害者の日常生活を支援する、車いす、歩行器など、移動手段となる福祉機器や周辺アクセサリへの関心が特に高かった。

高齢者、身体障害者の自立した生活と家庭介護に関する 90 のレクチャーが、REHACARE での kongress で多数の参加者を集めて開催された。特に今年は脳卒中の問題を抱える人を対象としたテーマが幅広く取り扱われた。ここでは年齢に応じた生活コンセプト、脳卒中の兆候、予防方法やリハビリのオプションなどに関する情報が提供され、約 600 名の専門家や脳卒中に苦しむ患者家族などが参加をした。

次回 REHACARE は 2014 年 9 月 24 日～27 日にデュッセルドルフで開催される。

REHACARE に関する日本でのお問い合わせは：

(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

担当：服部

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート 7F

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959

mdj@messe-dus.co.jp <http://rehacare.co.jp>